

横断幕は高松市に到着、県内2市を踏破！

全自治体訪問の2市目、さぬき市は朝早くから参加者が集まりました。開会は「原爆アオギリ」の下、大山茂樹市長があいさつ。毎年の行進に心から敬意を表すると切り出しました。G7広島サミットで各国指導者は被爆の実相を見てどんな思いを持ったのか不明だが、唯一の被爆国としてアピールしていく必要がある。将棋の藤井さんは七冠を獲得したが、彼は温故知新を座右の銘と言った。過去を忘れず、学んで未来を知ることができるという、私も70歳になったが原爆など温故知新で、二度と繰り返さないでこれから暮らしたいと核兵器への思いを披露しました。

午後の出発、上野一明牟礼総合センター長があいさつ。暑くなる中での行進に対し労ったあと、昨年2月ウクライナ市民の被害や核兵器での脅迫はとんでもないことと指摘。核兵器の廃絶は当然のことで、原爆投下78年になる今年、戦争でなく平和を実現することに尽力している行進に期待すると激励。

午後4時前に高松市役所に到着。藤沢やよい高松市原水協理事が終結集会を進行。樫昭二平和委員会筆頭代表は挨拶。約9km核兵器なくせと歩いてきたが、G7広島サミットで岸田首相やバイデン大統領など原爆碑の前でロシアの核に対し、核抑止論を宣言し失望したと告発。同時にG7参加のルラ・ブラジル大統領は核兵器禁止条約批准を表明した。この流れをさらに発展させていこうと呼びかけ。最後に参加された佐々木局次長と青木英城平和記念館館長にお礼。

佐々木啓明市民政策局次長は、大西市長不在と断り挨拶。平和行進は1958年東京に向けた行進以来の半世紀余、核兵器なくせの熱意と伝統に敬意。広島・長崎は二度と起こしてはならないと強調し、高松市も非核都市宣言以来のとりくみに触れたあと、行進が所期の目標を達成することを祈念して挨拶。また、原爆被害者森岡智子高松支部長のメッセージを読み上げました。その中で、今もなぜたたかいを起こすのかと問いかけ、街を破壊し人々を恐怖に落とし入れると告発し、戦いのない平和な世界が一日も早く訪れることを望むと強調。暑い中での行進だが、力強い一歩一歩の足音と平和の願いが世界中に届きますよう祈念すると締めくくりました。



さぬき市での出発式

牟礼支所での出発式

高松市役所での終結集会